

花鳥風月・俳句

深息し茹溢したり高菜の香

移動図書借りる確定申告日

森本 郁子

大寒や石鎚山の真色なり

霰降り両手に受けしコロコロり

春寒や重ね着装備庭手入れ

石井 トシ子

念力がほしいと嘆く枯蠟螂

馥郁と庭の水仙咲きにけり

娘の初荷千葉の名菓がどっさりと

チヨンと来て畑にニ、三羽初雀

成人式着飾る乙女天女なる

塗堀 良子

曇天に薄陽差すごと梅開く

板御神酒火鉢で炙り頬張りぬ

小林 泰子

コロナ禍で籠もる家にも春告鳥

高橋 学

亡き祖母のあんもち雑煮懐かしき

受験孫松山みやげパンふたつ

凧揚げて空一人じめ老い一人

小野 宮子

鬼は外豆をまく手のやわらかさ

上野 恵美子

春めいて草木そわそわ若芽出る

梅花に聞こえる歌はなごり雪

小野 弘幸

透きとほる空の青さや寒の梅

惚けまいと思ふ日々なり日脚伸ぶ

鈴木 伊都美

水温む自然と目線上を向く

二拍手にコロナ終息込めし春

待ち遠し梅桃桜咲く季節

徳永 誠一

三度目のワクチン接種鬼やらい

越智 恵美子

寒む空に薄紅の花咲く山茶花よ

人を疑い人を信じて年暮れる

我八十路仕事始めは草取りを

明星 勲

落葉なくきれいなにわをはいてみる

めづらしく下駄の音きく夜明前

加藤 イサ子

友恋し梅花ひらけば逢えるかな

ほんわかとボケていいのよ春だもの

落合 敦

雪柳小川の草木乗り越えし

高山の雪の流れや山眠る

篠原 高代

縫物の好きな老婆や緑小春

薪焚きし余熱にしたる仕舞風呂

三浦 シズ子